

令和4年度

阿南市立阿南第二中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・「視覚化」「焦点化」「共有化」を意識した授業展開。
- ・言語活動の充実を図り、表現力を養う。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
【教諭】遠藤 佳代	【校長】宮田 秀人 【教頭】姫野 晃子
	【教務】遠藤 佳代
	【学年代表】森 雄一 中西 崇文 平間 友介

校長

宮田 秀人

【各校の取組状況の把握について】

研究授業やオープンクラスを多く持つことで、管理職をはじめ全教職員で把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度は真面目で、指示に対して誠実に取り組むことができる。 ●家庭学習の時間が少なく、宿題以外の課題に取り組んでいる生徒は少ない。小テストの勉強もしていない生徒もいる。 ●自主ノートの内容もあまり充実しているとは言えず、基礎基本が定着していない生徒が多い。学力の二極化、意識の差が大きい。	・セミナーや自主学習ノートを毎日提出することができ、基礎的・基本的な知識を確実に身につけることができる。 ・小テスト、単元末テストで正答率が75%(75点以上)。	・授業の始め、もしくは終わりに振り返りのテストを行う。結果を評価に反映させる。 ・視覚化、焦点化、共有化を意識した授業を展開する。 ・模範となる内容のノートを掲示するなど、生徒の意識を高める工夫をする。 ・タブレットのドリル学習を利用する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示されたことに対しては真面目に取り組むことができる。 ●語彙力、文章力が乏しいため自分の思いや考えを言葉で表現するのが苦手である。 ●記述式の解答に初めから取り組まない生徒もいる。	・自分の意見や想いを適切な言葉で表現し、進んで書いたり発表したりすることができる。 ・グループ学習では、相手の意見を尊重しながら、話し合いの中で自分の考えを深めることができる。また、グループの意見をまとめることができる。	・「阿波つ子タイムス」から記事を選び、視写、感想を書く活動を週1回行う。 ・帰りの学活で1分間スピーチを行い、自分で選んだ新聞記事について要約、感想をまとめ発表する。 ・読書の時間を充実させ、語彙力、表現力を養う。 ・行事や学習の感想を書く場面を作り、掲示することで、互いに批評しあったり他者の意見から学ばせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの教科にも前向きな態度で授業に臨んでいる。 ○朝のセミナー学習や視写にも真面目に取り組んでいる。 ●家庭学習で予習に取り組む生徒が少ない。家庭学習の時間が少なく、中にはテスト前ですらやらない生徒もいる。	・学ぶことに興味や関心を持ち、どの教科にも積極的に臨んでいる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・課題ボードを有効に活用する。 ・「家庭学習の手引き」を学校で配り、内容を説明する。 ・家庭学習の時間の記録、テストに向けての計画づくり、各自の目標設定。 ・ICTの有効活用。タブレットと書く活動、板書とのバランスを考える。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

